

AWS Summitミニセッション

「AWSアップデートに溺れない！ ツイート数で見る、 本当に重要な情報とは？」

2025/6/25-26

株式会社NTTデータ

自己紹介

奥村 康晃 (Okumura Yasuaki)

NTTデータ データセンタ&クラウドサービス事業部 エグゼクティブITスペシャリスト

ミッション：

クラウド領域における技術リード
先進技術を用いた新規サービスの創出

社外活動：

- 2022-24 APN AWS Top Engineers / 2023-24 AWS Ambassadors
- AWS Summit Tokyo 2023登壇など
- CodeZine:これだけは押さえておきたい！ AWSサービス最新アップデート[連載中]
- マイナビ Tech+:AWS Organizations連携サービス最新情報&セットアップのコツ[連載中]



保有資格：



こんなことはありませんか？

サービスアップデートが多すぎる問題



平均**5～10**件/日のアップデートが発表

何が重要か**がわからない**

多すぎて、**アップデート確認疲れ**...

見逃してしまって、
顧客から指摘された...

よくある解決策

What's newサイトのRSSを確認して、Lambda/Bedrock等の組み合わせで加工したものをチャットツールへ通知

アップデート収集方法の例

AWS What's newサイト



確認



AWS Lambda

通知

Slack/Teams
などのチャットツール

連携



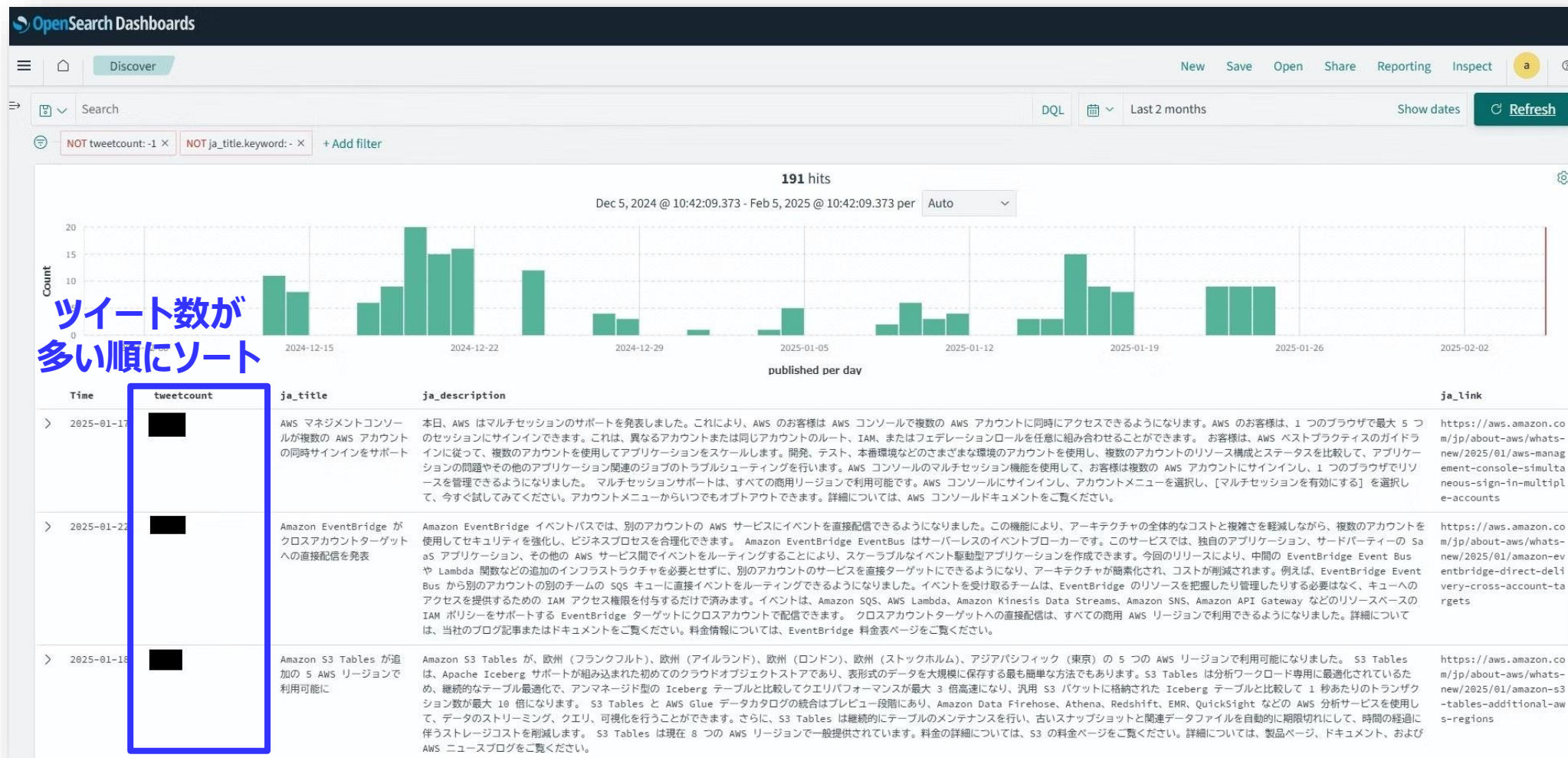
Amazon Bedrock

アップデートを見逃しにくくはなるものの
どれが重要であるかは**わからない**まま

当社の取り組み

AWSのアップデートとXのツイート数を組み合わせた専用ダッシュボードを用意

Xのツイート数が多い = 市場注目度が高い（重要度が高い）と想定し、重要度順にアップデートをソート済み



当社の取り組み

全文検索や日時による絞り込みが可能



弊社での活用例 その1

過去の開発ドキュメント再利用時の効率化

Before

アップデートを網羅的に確認する方法は、プロジェクトそれぞれで異なっており、確認に工数を要することも。

前回執筆時の
タイミング



開発ドキュメント
(設計書等)

再活用時の
タイミング



この間のサービスアップデートの
反映方法はまちまち...

After

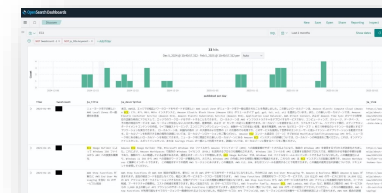
利用しているサービスの重要なアップデートから
効率的に確認し、ドキュメントへ反映することが可能に。

前回執筆時の
タイミング



開発ドキュメント
(設計書等)

再活用時の
タイミング



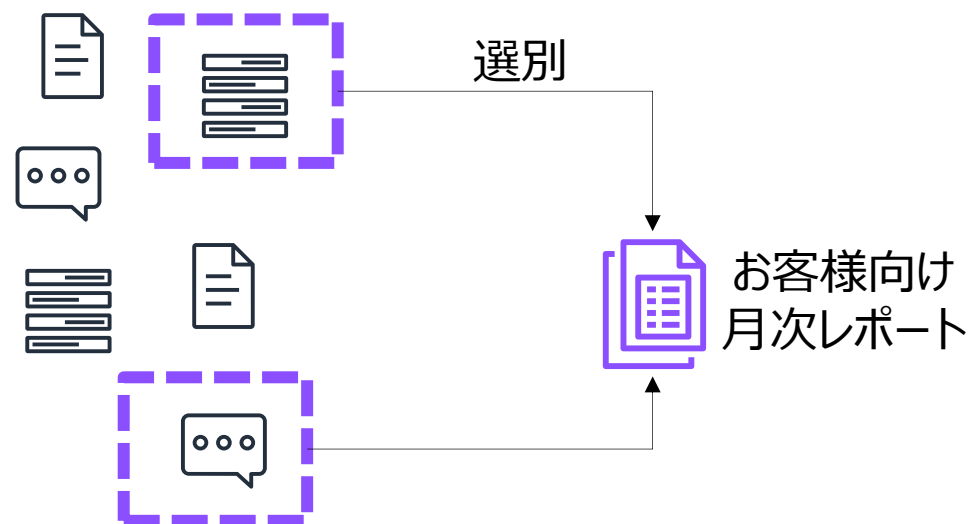
- ・参照元ドキュメントの作成日
- ・利用しているAWSサービスを指定することで、
重要度の高いアップデートを効率的に検索可能

弊社での活用例 その2

毎月の運用レポートの効率化

Before

多数のサービスアップデートから手動で選別をしており
作成者によって観点が異なったり、選別工数を要す



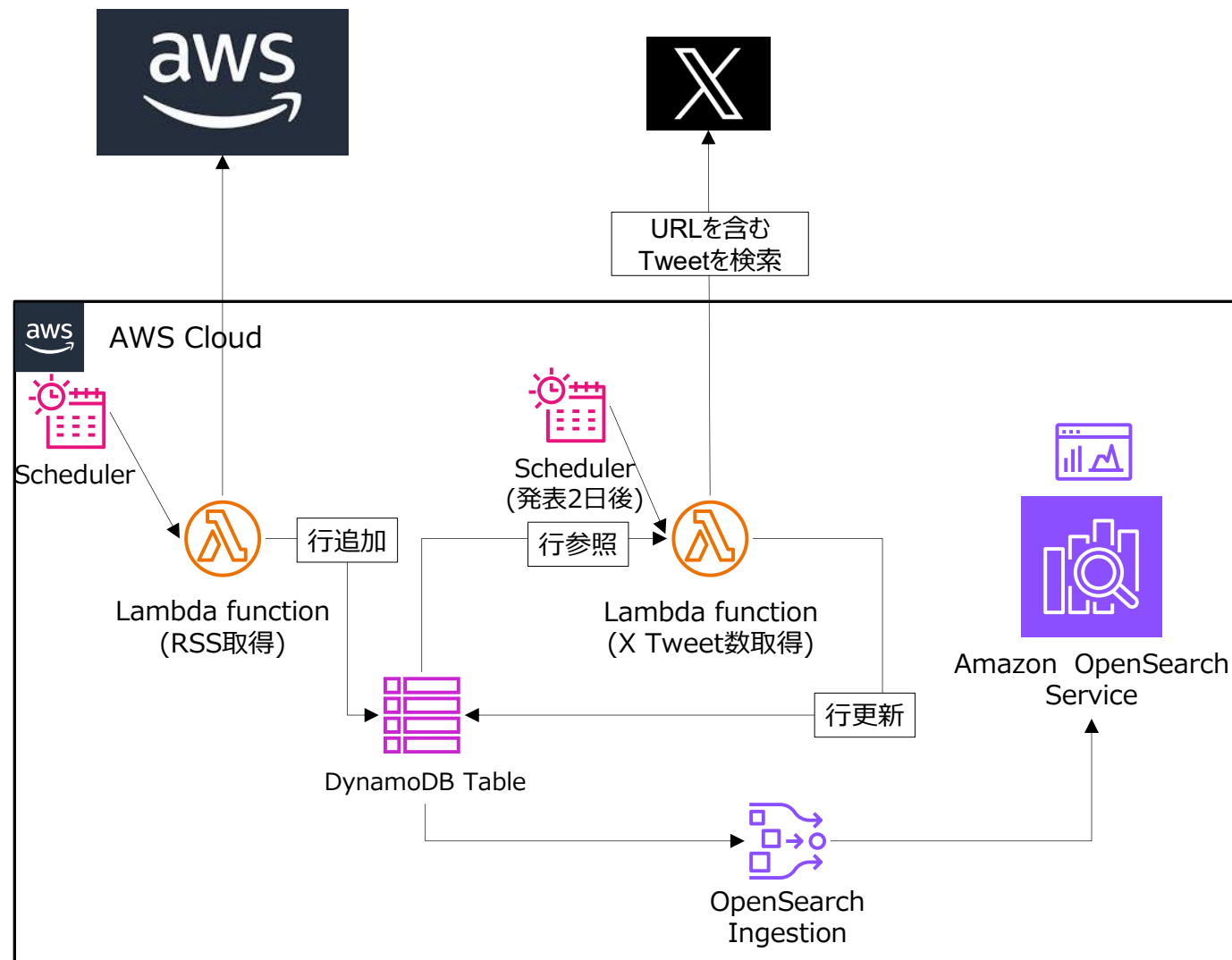
After

重要度順にサービスアップデートを選別し、
利用しているサービスの絞り込みを全文検索で実施



当社の仕組みの裏側

- 1.日次でAWS公式RSSフィードから情報を取得する
- 2.取得した結果をDynamoDBに保存する
- 3.サービス発表後、2日以上経過した際に、Xから[Search Tweets API](#)を使ってツイート数を取得する
- 4.DynamoDBからOpenSearch ServiceへゼロETL機能を利用して、データを送信する
- 5.OpenSearchダッシュボードでツイート数が多い順に表示される



当社の仕組みの裏側

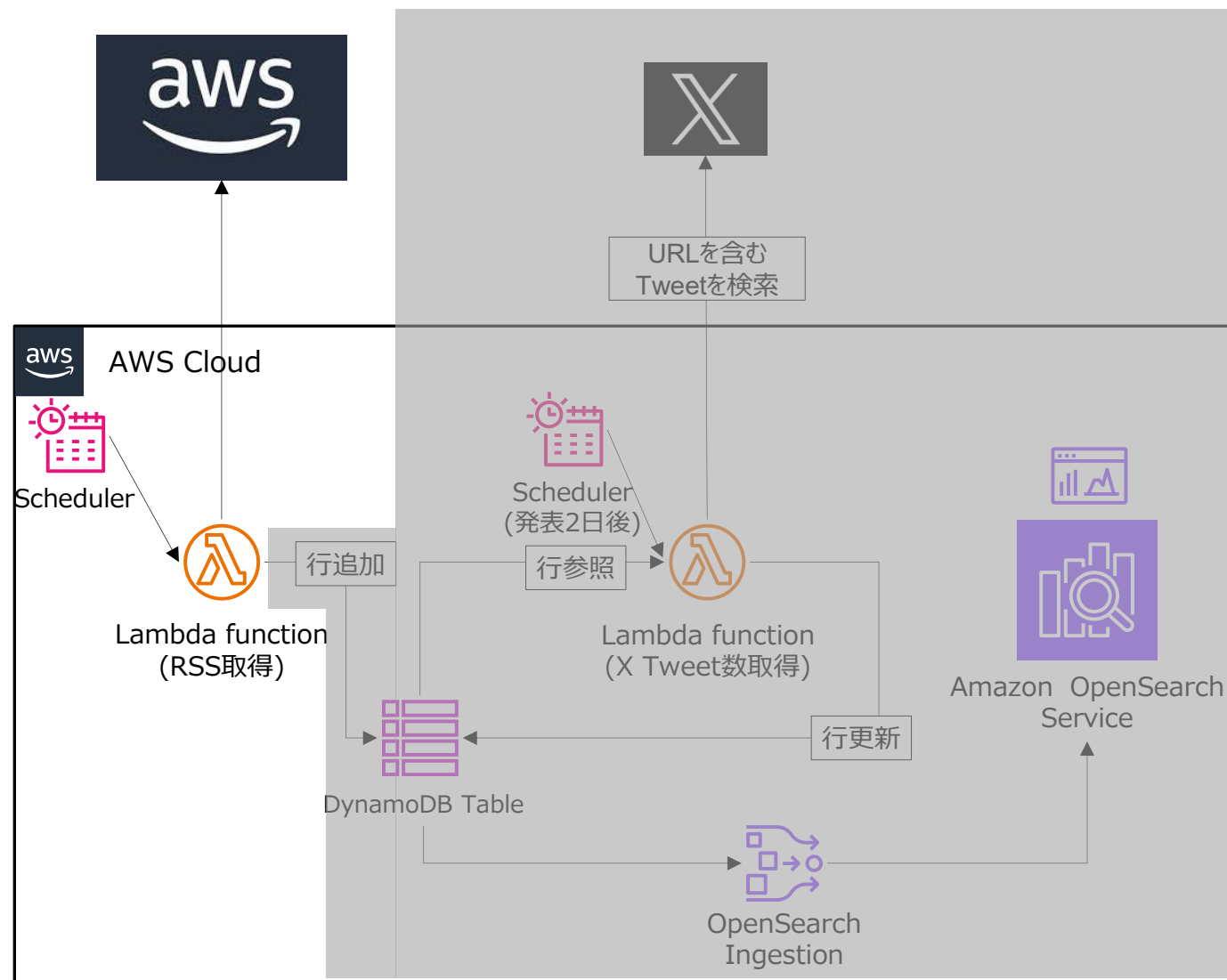
1.日次でAWS公式RSSフィードから情報を取得する

2.取得した結果をDynamoDBに保存する

3.サービス発表後、2日以上経過した際に、Xから
Search Tweets APIを使ってツイート数を取得する

4.DynamoDBからOpenSearch Serviceへゼロ
ETL機能を利用して、データを送信する

5.OpenSearchダッシュボードでツイート数が多い順
に表示される



当社の仕組みの裏側

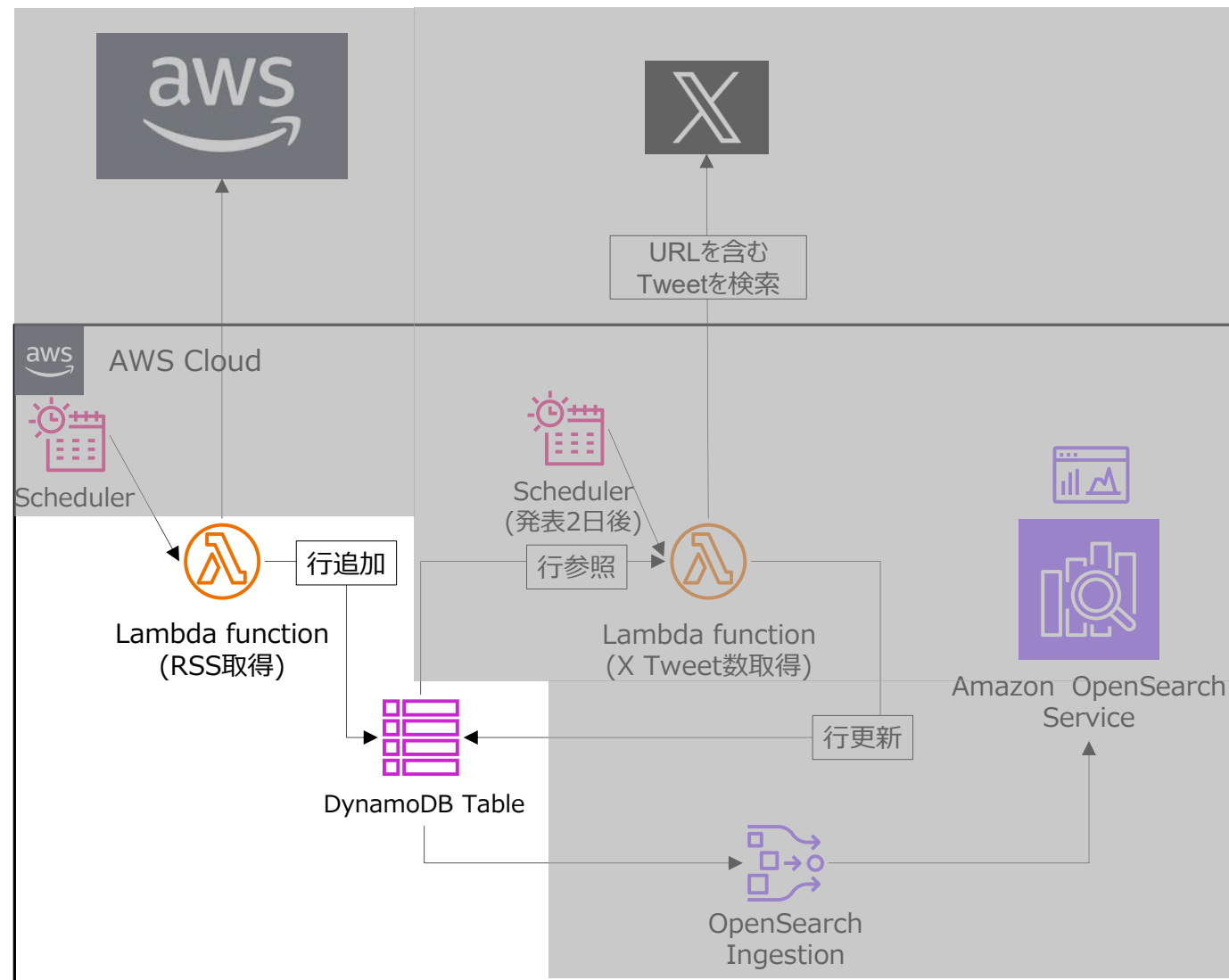
1.日次でAWS公式RSSフィードから情報を取得する

2.取得した結果をDynamoDBに保存する

3.サービス発表後、2日以上経過した際に、Xから
Search Tweets APIを使ってツイート数を取得する

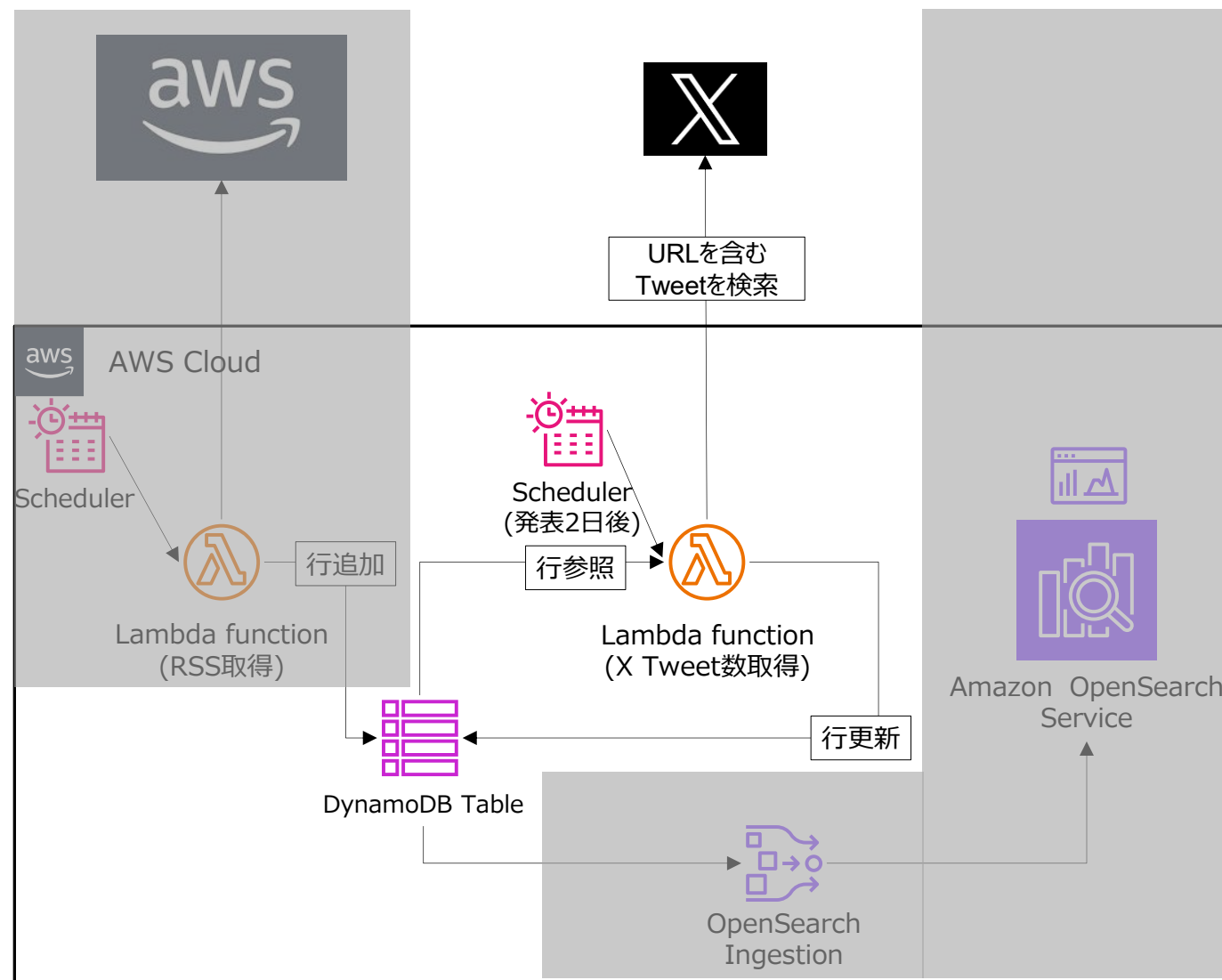
4.DynamoDBからOpenSearch Serviceへゼロ
ETL機能を利用して、データを送信する

5.OpenSearchダッシュボードでツイート数が多い順
に表示される



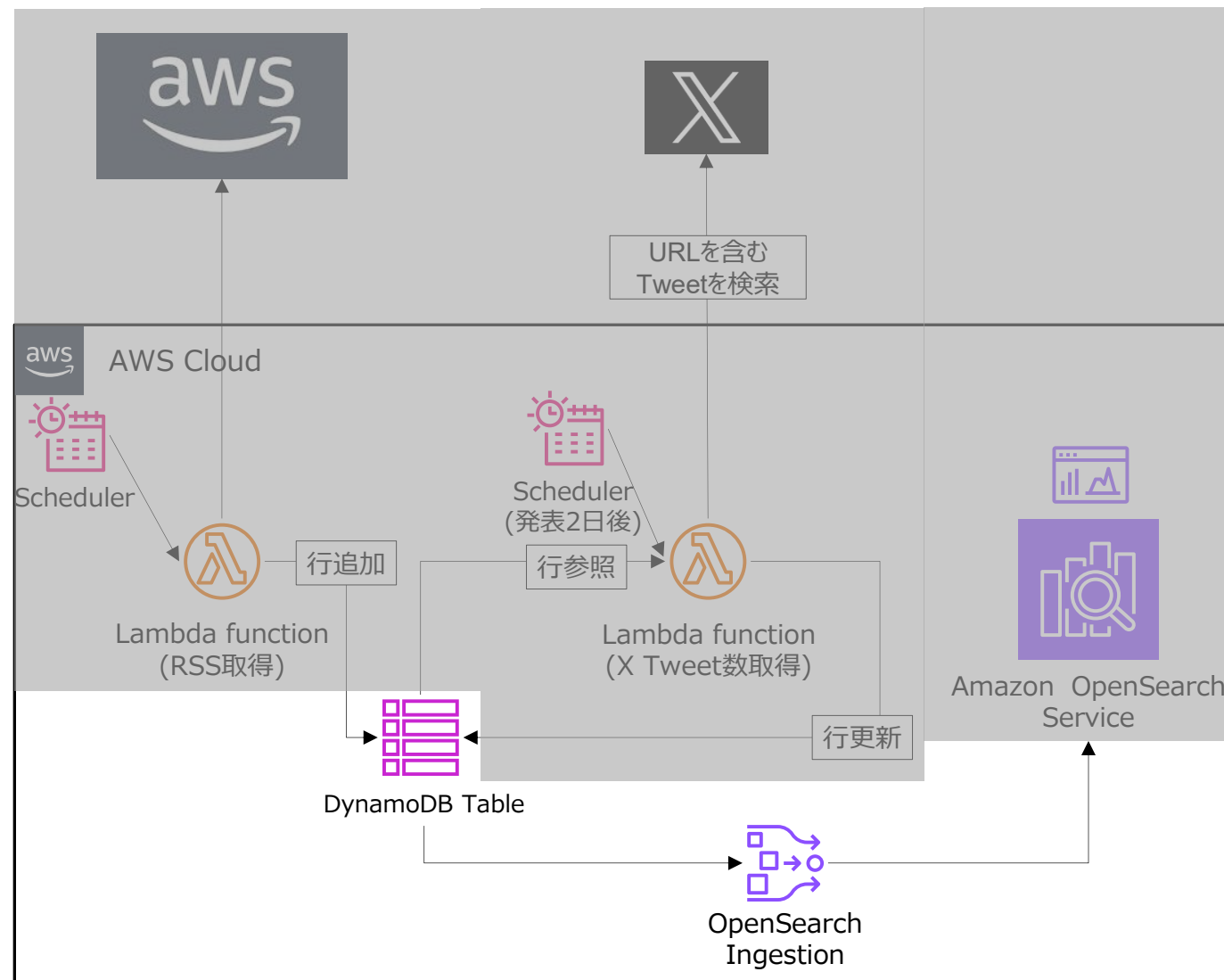
当社の仕組みの裏側

1. 日次でAWS公式RSSフィードから情報を取得する
2. 取得した結果をDynamoDBに保存する
3. サービス発表後、2日以上経過した際に、Xから [Search Tweets API](#) を使ってツイート数を取得する
4. DynamoDBからOpenSearch ServiceへゼロETL機能を利用して、データを送信する
5. OpenSearchダッシュボードでツイート数が多い順に表示される



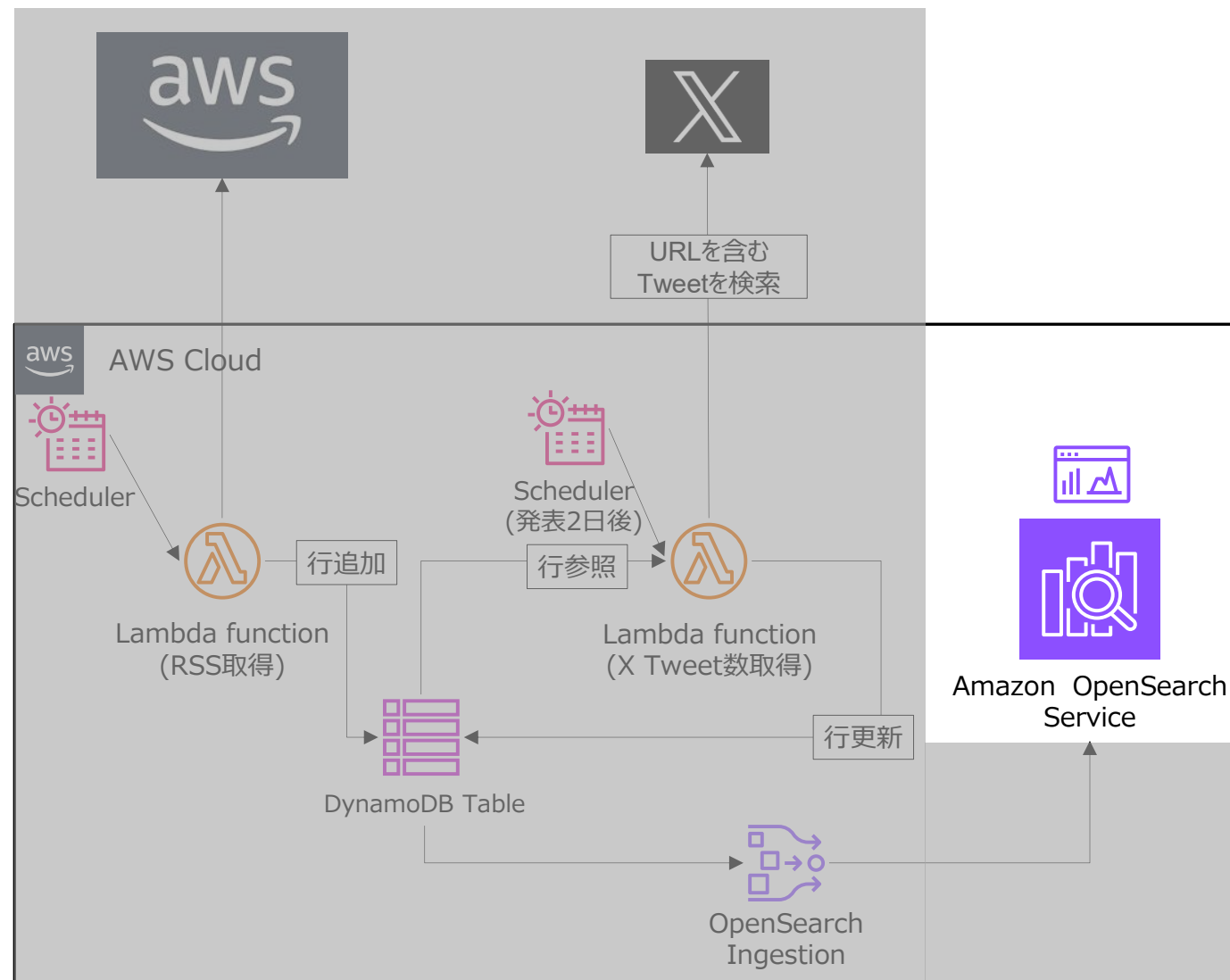
当社の仕組みの裏側

- 1.日次でAWS公式RSSフィードから情報を取得する
- 2.取得した結果をDynamoDBに保存する
- 3.サービス発表後、2日以上経過した際に、Xから Search Tweets APIを使ってツイート数を取得する
- 4.DynamoDBからOpenSearch ServiceへゼロETL機能を利用して、データを送信する
- 5.OpenSearchダッシュボードでツイート数が多い順に表示される



当社の仕組みの裏側

- 1.日次でAWS公式RSSフィードから情報を取得する
- 2.取得した結果をDynamoDBに保存する
- 3.サービス発表後、2日以上経過した際に、Xから Search Tweets APIを使ってツイート数を取得する
- 4.DynamoDBからOpenSearch ServiceへゼロETL機能を利用して、データを送信する
- 5.OpenSearchダッシュボードでツイート数が多い順に表示される



FY2024下期のトレンド その1

ツイート数の上位4件は下記となり、**コスト削減**に関するアップデート注目度が高く、万人にメリットがあるものがXでは注目されている

#	タイトル	内容
1	Amazon CloudFront で、AWS WAF によってブロックされたリクエストが課金対象外に	2025年10月25日から、AWS WAFでブロックされたCloudFrontリクエストが 無料 になります。アプリの変更は不要で、すべてのCloudFrontディストリビューションに適用されます。
2	Amazon DynamoDB がオンデマンドスループットとグローバルテーブルの価格を引き下げ	2025年11月1日から、Dynamo DBのオンデマンドスループットの価格が50%、グローバルテーブルの価格が最大67% 引き下げられ ました。
3	Amazon Aurora Serverless v2 がゼロキャパシティへのスケーリングをサポート	Amazon Aurora Serverless v2は、0 ACUへのスケーリングが可能になり、非アクティブ時に自動で一時停止します。最初の接続で再開し、使用されていない期間の コストを節約 できます。
4	AWS マネジメントコンソールが複数のAWS アカウントの同時サインインをサポート	AWSがマルチセッションをサポートし、1つのブラウザで最大5つのAWSアカウントに同時アクセス可能になりました。これにより、複数アカウントでのリソース管理やトラブルシューティングが容易になります。

FY2024下期のトレンド その2

ツイート数の上位30件をサービスごとに分類すると、下記となり、以前からある**ベーシックなサービスアップデート**に、Xでは注目が集まりやすい傾向（生成AI関連はそれほど多くない）

#	サービスメニュー名	Top20内のアップデート数
1	Amazon CloudFront	4
	Amazon Aurora	4
	Amazon S3	4
4	AWS Lambda	3
5	Amazon DynamoDB	2
	その他	2
	Amazon CloudWatch	2
	Amazon Bedrock	2
9	Amazon EKS	1
	Amazon EventBridge	1
	Amazon ElastiCache	1
	Amazon VPC	1
	Amazon Backup	1
	Amazon CloudFront + Application Load Balancer	1
	Amazon Data firehose	1

NTTデータのSRE as a Service

以下サービスメニューをお客様の状況に応じて時間単位でご利用可能です

クラウドネイティブ開発支援サービス

#	サービスメニュー例	内容
1	システム アーキテクチャ検討	マネージドサービスを活用したシステム アーキテクチャ検討支援
2	PoC	お客様にとって未経験のサービスのPoC
3	開発ガイドライン 作成支援	お客様特性を踏まえたクラウドでの開発 ガイドラインの作成支援
4	PMO/QA支援	クラウド開発での品質保証のためのコー チングやレビューなどを支援

※システムの要件定義はお客様自身で実施

※お客様環境での実作業（AWSリソースの構築など）はお客様自身で実施

※新規契約の場合、1契約最大3か月間までのご支援(最低稼働時間10H/契約)

クラウドネイティブ運用支援サービス

#	サービスメニュー例	内容
1	アップデート対応 支援	クラウドサービスアップデート情報を踏まえ た改善やEOL対応支援
2	コスト可視化／ 最適化支援	お客様の全社視点でのコスト可視化／ 最適化支援
3	セキュリティガードレ ール実装／運用支援	お客様全社でクラウドをセキュアに利用す るためのセキュリティガードレール実装やそ の運用を支援

※お客様環境での実作業（AWSリソースの設定変更など）はお客様自身で実施

※新規契約の場合、1契約最大3か月間までのご支援(最低稼働時間10H/契約)

まとめ

- 変化の激しいAWSサービスアップデートを人力で追っていくことをは非常に大変
- 当社では独自のサービスアップデートを効率的にキャッチアップする仕組みを用意し、開発・運用に活用
- サービスアップデートキャッチアップ方法の提案、アップデートを踏まえた改善支援を行うサービス(**SRE as a Service**)もありますので、興味がある方はぜひともお声がけを！

NTT Data